

5・12～14 沖縄へ！

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2012年 4月30日

No 23

Tel 050-3036-6464

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

4・27勾留理由開示公判打ち抜く！

4月27日、4・19法大弾圧で不当逮捕された学友A君の勾留理由開示公判を東京地裁で行いました！

この日はA君の友人を先頭に傍聴席に入りきらないほどの仲間が結集し、さらにA君も8日間の完黙・非転向の闘いをやり抜いて元気に出廷し、A君奪還への決定的な闘いとして打ち抜かれました！

冒頭、法大弁護団である森川文人弁護士から「『公務執行妨害』の具体的事実を示せ」「警察の側こそデモ隊に暴力的に襲いかかってきたのではないのか」と追及が行われました。合田悦三裁判長は警察権力の筋書きそのままの返答しかできず、司法権力と警察権力の癒着ぶりを満天下にさらす始末。傍聴席からも「A君は何もやってない」「早く釈放しろ」「裁判長こそ監獄へ行け」と抗議の声がガンガンあがり、合田裁判長は不当にも退廷命令を乱発。

井堀哲弁護士からは「『処分撤回』『反原発』を掲げた法大デモに対する弾圧そのものであり、『公務』自体

が不当である」「3・11以降、国・財界・マスコミが一体で国民を騙し続けてきたことが明らかとなった。あらゆる権力が権威を失っている。司法も原発に手を貸してきた張本人であり、恥の上塗りをしている。」と根底的な批判が叩きつけられました。

4・19弾圧ぶっ飛ばし、法大闘争勝利へ！

キャンパスから再稼働を阻止する「反原発」大運動を巻き起こし5月沖縄闘争へ！残り2週間全力で組織化を！



開示公判後、A君奪還へ改めて決意を燃やす結集した仲間たち

東北大・中島哲演さん講演会大成功！

東北大学学生自治会は4月25日、新入生歓迎企画として中島哲演さん講演会を行いました。ある一年生は「学生自治会は、原発推進派や原発反対はなど様々な意見をもつ人々の討論の場所でもあります。もしこの講演を通じて社会問題に興味を持ったり、原発について自分なりの意見をもったのなら、自治会で一緒に討論をしましょう！」と講演会参加を学生に呼びかけて、この日の講演会には飛び入りも含めて多くの新入生が参加して、質疑応答も含めて盛り上がりしました。

坂野陽平書記長が特別アピールとして「中島哲演さんの訴えと『フクシマの怒り』に応え、全原発を廃炉にしよう」「全原発の廃炉と一体で、社会を根本的に変革しよう。その闘いの先頭に学生がたとう。」と提起。この間の福島大攻防や4・19法大包囲デモ&文部科学省行動の中から、学生が団結すれば勝利できるという核心をいきいきと語ってもらいました。

そして、中島哲演さんの講演が行われました。中島哲演さんは自らの経験から様々なことを語って頂きました。大学生時代に原爆被ばく者と出会い、被ばく者援護活動を始めたこと、小浜市に原発建設の話がきたことで、原発反対の運動を開始したことなど、自身の体験談からなぜ原発反対を訴えてきたのかを語っていただきました。さらに、原発立地のおおい町や小浜などの若狭の現地で抱える問題にふれ、原発の再

稼働を阻止していく中で雇用問題に不安を抱える現地の人々の「複雑な状況」を話して頂きました。その上で、中島哲演さんは「根本的な責任は電力会社にあるわけです。何も現地住民の責任ではないです。原発推進の事業者が、やらかした失態なんですから。その損失を被った部分は、電力会社が補填すべきです。そして国策として推し進めてきた原発推進ですから、企業だけでまかなえない部分は、国の財政的な支援を現地の経済的損失をカバーするために財政支援を行うべきだと思います」と訴えられました。その後の質疑応答や講演会後の交流会も新入生が積極的に参加し、大成功しました。

学生の団結した力で原発を廃炉にしよう。



学祭実が社研排除の暴挙！

4・19法大デモ×文科省行動の高揚を引き継ぎ、校内での闘いが火を噴いています！法大当局は、多くの学生の反対の声を踏みにじり、今年度から自主法政祭で完全禁酒を決定しました。学祭の主人公である学生から決定権を奪い、学生を分断し、学祭までをも大学が牛耳るということです。この暴挙にお墨付きを与えているのが、自主法政祭実行委員会(以下、学祭実)です。

4月27日、学祭実は一歴史的暴挙に手を染めました。当局と結託した「学祭における8項目」なる規制ルールの説明会を開催し、その場から法大文化連盟所属サークルである社会科学研究会(以下、社研)を排除したのです。

当日、学祭実が集まってきたサークル員を一行に並ばせ、「学生証チェック」を行いました。そして社研の学生に対し、「あなたたちは参加できません」と約10人がかりで阻止線をはり説明会が終わるまで入場を妨害してきたのです。普段当局が闘う学生に対して行っている妨害を、何と学祭実が行ったのです！これに対し、社研は2時間にわたって「それが学祭実のやることか！」と徹底弾劾を叩きつけました！

法大闘争は常に、当局の学生支配と闘わない腐りきった学生指導部との対決でもありました。彼らは新自由主義大学の補完物となって当局を支えてきました。そしてついに、社研の排除という歴史的暴挙に手を染めたのです。これは、学生の利害ではなく、大学の利害を優先し、そのために学生から団結を奪うということです。しかし、これはチャンスでもあります。私たち学生の敵は鮮明になりました。正



社研部員入場を暴力的に阻止する学祭実！

体がむき出しになった学祭実を、今こそ法大生が団結してぶっ飛ばす時です。法大生は規制絶対反対とともに声をあげよう！大学の主人公は学生です。5月意見交換会、6月学祭説明会、そして7月の全学説明会へ！学祭実を打倒し、大学を取り戻そう！

広大新歓講演会に80人！

4月26日(木)、広島大学で新入生歓迎企画として、肥田舜太郎さんをお招きして、「被爆医師の語る“広島と福島” - 低線量内部被爆の危険性」と題して講演をしていただきました。会場は、80人の参加者で、肥田さんの講演に聴き入りました。

講演では、肥田さん自身の被爆体験と、実際に被爆者治療にあたった経験を語り、「いま福島で生活して安全だといっている人は、福島で実際に生活する人に対して、何の責任も感じていない」「(内部被爆を無視し、)御用学者が今の福島でも住み続けていいと言っている。あんな奴らは死刑にした方がいい」と激しく弾劾。命や健康に真正面から向き合う姿勢は、「今の資本主義社会においては、モノ・カネが大事にされる。こんな社会では、人の健康は2の次にされている」「原発については、今すぐ全てを止める以外の選択肢はない」と、社会全体の批判をされました。

広島大学の原医研・神谷研二教授は、福島で放射能の影響を過小評価し住民の避難の必要がないと言って回った御用学者です。その広島大学で、このように内部被爆を告発する講演会が開かれ、多数の新入生を含め、学生、教職員、市民、マスコミ関係者が参加していることは、決定的です。

新入生からは「肥田さんは被ばくの影響についてだけでなく、資本主義の問題など広く提起してなるほどなと思いました」「(法)「核を許さないという気合が伝わってきました」(総科)と好評でした。

広島大学から、「すべての原発なくそう」「原発の再稼働反対」の声があげられました。5月沖縄、8月ヒロシマナガサキ闘争を、全ての核と原発をなくす闘いとして上りつめていこう。



5・12~14沖縄闘争

- 5/12(土)
那覇・国際通りデモ 16時県庁前に集合
「復帰」40年沖縄集会 18時~那覇市民会館
- 5/13(日)
基地見学
全国学生交流集会
- 5/14(月)
辺野古の浜見学、名護市内デモ

